



～人を見た目で 判断していませんか～

市人権推進課（教育庁舎1階）

TEL 32・2122 / FAX 33・3525

「先生、どんな具合かねえ。あたしや、まだ生きられるかねえ。」

「そんなのはわからんよ。」

お迎えが来るのはあちらさん次第だからねえ。ただ、それまで元気かどうかって言われれば、まあ、多分大丈夫だと思うよ。」

「そりゃそうだよ。寿命はお天道さん次第だからねえ。ま、先生が大丈夫ってんだから、あたしや、心配なんかしないよ。」

〈中略〉

大島さん（仮名）。浅草をめぐらにする60がらみの自称、テキヤさんだ。血圧と不眠症で通ってくる。

そんな二人がある日、鉢合わせた。

待合室には10人ほどの患者さんがいた。オールバックでダボシャツに雪駄履き。見るからに只者ではない風体の大島さんの両隣には、誰も座らない。

そんなところに田中さん

が入ってきた。つかつかと大島さんの方へ近づくと、「どこいしょ」と隣に座った。

二人は初対面だった。

「あんた！ヤーさんかい。」周りの患者さんたちが固唾を呑む。そもそも声高た。ささやきなんかではない。

「大体ねえ。あたしや、そいつた人間は大嫌いなんだよ。あんた、どうせ博打かなんかで、すってんでんになつちまつたんだろ。」

大島さんは、一瞬ドキツとした顔を見ると、みるみる真っ赤な顔色になつていった。おかまいなしに田中さんは続ける。

「大体ねえ、競馬やパチンコで家を建てた奴なんかいないんだよ。普通は家をなくしちゃもうんだよ。いいかい金輪際、博打なんかするんじゃないよ。」

驚いたことに、大島さんは深々と頭を下げた。「オッカさんの言うとおりで。金輪際、博打はやらな

いって約束すつからよ。嫌わないでまた叱つてくんない。」

「ふん。二度はないからね。」大島さんは、処方箋を受け取ると、周囲の人たちにも頭を下げて出て行った。

初対面、それも声をかけるのもためらわれれそうな相手を叱り飛ばした田中さん、さつそうと帰つていった。診察を受けるのも忘れていた。狐につままれたような顔をした患者さんたちが残つた。

見た目には怖そうなおじさんを、遠慮せずに一喝し、諭した田中のお婆ちゃん。それを素直に受け入れた大島さん。待合室に爽やかな風が流れたようです。

参考・引用文献

「アイユ」

2009年6月15日号



第1回人権教育級

聴覚障がい者と 共生する社会を 目指して

徳島県難聴者と支援者の会『ナシの会』会長である大西鉄男さんによる講演会を開催します。

どなたでも受講できますので、是非ご来場ください。

【日時】

7月8日(月)
午後2時～午後4時
(午後1時30分より受付)

【場所】

市保健センター2階
多目的室

※要約筆記を準備しています。
※授乳・育児等にご利用いただける部屋も用意しております。



お問い合わせは、市人権推進課(教育庁舎1階)
TEL 32・3814 / FAX 33・3525)まで。